

"人名を冠した解剖用語 "

Who named it ?

亀田総合病院 脳神経外科

Kameda Medical Center, Department of Neurosurgery

田中 美千裕

Michihiro TANAKA,MD.,Ph.D.

keywords: anatomical terminology, anatomist, history

このセッションでは主の中樞神経系の解剖用語に名を残した先達の解剖学者についてreviewします。

アルファベット順35名

Adamkiewicz アダムーヴィッチ Albert Wojciech Adamkiewicz (1850 -1921) ユダヤ系ポーランド人 脊髄動脈について詳細に研究

Bernasconi and Cassinari イタリアの解剖学者、1957年に内頸動脈からテント切痕に至る硬膜血管を報告。

Broca: ピエール・ポール・ブローカ(仏: Pierre Paul Broca、1824- 1880年)。フランスの内科医、外科医、解剖学者、人類学者。ジロンド県サント＝フォア＝ラ＝グランド出身。1861年に、Bicêtre Hospitalにおいて21年間進行性の言語障害と麻痺を患っているが理解能力や神的機能には障害のないルボルニュという患者のことをブローカは聞きつけた。彼は「タン」としかはっきり発音できなかったため「タン」とあだ名されていた。彼の死後、剖検を行い、予想通りルボルニュは左半球の前頭葉に傷害を負っていた

Dandy: Walter Edward Dandy (1886 - 1946) アメリカジョン・ホプキンス大学脳神経外科医、Harvey Cushingの弟子1927年世界で最初にマクロ下で開頭クリッピング術を成功させた。

Davidoff and Schecter:ダビドフ・シェヒッター 1965年にドイツの解剖学者Wollschlaeglerが記述、指導してくれた恩師2名の名前を冠した。

Edinger:ルードヴィヒ・エディンガー Ludwig Edinger (1855-1918) ドイツの神経学者、14歳時、母に買ってもらった顕微鏡で微小解剖の世界に興味をもった。その後ハイデルベルク大学解剖学講座のFriedrich Arnoldに師事。学生時代はTheodor Schwann、Carl Gegenbauerにも影響を受ける。自宅のキッチンにミクロトームを購入して設置し、日々プレパラートを作成し、動眼神経の副交感神経成分を同定。Karl Friedrich Otto Westphalと共に名前を残している。

Eustachi: エウスタキウス (ラテン語:Eustachius、イタリア語:Bartolomeo Eustachi (バルトロメオ・エウスタキ)、1500年か1514年 - 1574年) は、16世紀のイタリアの解剖学者、医師。アンドレアス・ヴェサリウスと同時代人で、解剖学のパイオニアの1人である。1564年の『解剖学小論』などで知られる。

Niche Neuro-Angiology Conference 2014

Faloppio: ガブリエレ・ファロピオ (Gabriele Falloppio 1523年 - 1562年10月9日) はイタリアの解剖学者、医師。ラテン名のファロピウス (Fallopius) として知られることが多い。16世紀を代表する解剖学者、医師の一人。

Foix-Alajouanine : Foix-Alajouanine症候群の記載者 Théophile A. J. Alajouanineと Charles Foixの2名が1926年にsubacute necrotizing myelitisを記述。

Fuse: 布施現之助 ふせげんのすけ 小樽生まれの布施現之助は、東京帝国大学医学部を卒業後、1907年国費留学生としてスイスに渡り、Zürich大学脳解剖研究所でMonakowに師事し主に神経核の研究を行った。Kölliker-Fuse nucleusにその名を残す。ケリカー・布施核は脳幹で呼吸リズムの調節に関与。

Galenos: ガレノス (A.D. 129年頃 - 200年頃) は、ローマ帝国時代のギリシアの医学者。臨床医としての経験と多くの解剖によって体系的な医学を確立し、古代における医学の集大成をなした。彼の学説はその後ルネサンスまでの1500年以上にわたり、ヨーロッパの医学およびイスラームの医学において支配的なものとなった

Golgi: カミッロ・ゴルジ (Camillo Golgi, 1843年7月7日 - 1926年1月21日) はイタリアの内科医、科学者。精神病院に勤務している際に、彼は主に銀を使う金属による神経の染色方法の実験を行った。

Herophilos: ヘロフィロス (Herophilos 紀元前335年 - 紀元前280年) は古代ギリシアの医学者。ヘロフィロスは、人体解剖に基づいて理論を組み立てた最初の人物である。脳が神経系の中核で、知性の在処だということ突き止めた。さらに、神経系統にも特別の関心を払い、神経を血管と、運動神経を感覚神経と区別した。少なくとも600人の生きた囚人を人体実験の材料にした

Hess: ルドルフ・ヘス Walter Rudolf Hess (March 17, 1881 – August 12, 1973) チューリッヒ大学生理学教室教授、神経眼科学。1946年ノーベル医学生理学賞をエガス・モニスと共同受賞、息子のMax Hessはチューリッヒ大学神経内科教授

Heubner: ホイブナー Johann Otto Leonhard Heubner (January 21, 1843 – October 17, 1926) ドイツの小児科医、近代小児科の父と言われる。彼は学位論文の中で、前大脳動脈A2近位より起始して前孔質に入り尾状核頭や内包前脚、被殻に至る特徴的な動脈を記述した。

Horner:ホルネル Johann Friedrich Horner (27 March 1831 in Zurich – 20 December 1886) was an ophthalmologist based at the University of Zurich, Switzerland.1869年に縮瞳、眼瞼下垂、瞼裂狭を来す症候群を記載、神経眼科学の祖 晩年はチューリッヒ市内で開業

Jacobson: ヤコブソンの神経 JACOBSON, LUDVIG LEVIN (1783–1843), デンマークの解剖学者

Labbé: Charles Labbé French surgeon, born October 8, 1851, Merlerault, département Orne, région Basse-Normandie; died October 22, 1889, Paris.

Luschka: ヒューベルト・フォン・ルシュカ Hubert von Luschka は、19世紀のドイツの解剖学者。

Magendie: フランソア・マジャンディ François Magendie は、19世紀前半に活躍したフランスの生理学者

Niche Neuro-Angiology Conference 2014

Monakow: コンスタンチン フォン モナコウ Constantin von Monakow プロイセン生まれの神経解剖学者 チューリッヒ大学脳神経研究所を創設。

Purkyně: ヤン・エヴァンゲリスタ・プルキンエ Jan Evangelista Purkyně は、19世紀前半に活躍したボヘミア王国（いまのチェコ）の解剖学者、実験生理学者。1787年 リボホヴィツェ（リトムニェジツェ近郊）に生まれる。1869年 プラハにて没。ドイツ語名ヨハネス・エヴァンゲリスタ・リッテル・フォン・プルキンエ Johannes Evangelista Ritter von Purkinje の "Purkinje" のスペルが用語で使われる。小脳の大型の神経細胞、プルキンエ細胞とその細胞のある層、プルキンエ細胞層、心室壁内の特殊心筋線維、プルキンエ線維などが有名

Rolando: ルイジ・ローランド (Luigi Rolando, 1773年6月16日 - 1831年4月20日) はイタリアの解剖学者、生理学者。1773年にイタリアのトリノで生まれた。トリノ大学の教授として脳の解剖学的の研究を行い、脳機能の局在を予測した。ローランド溝にちなんでcentral arteryを特にRolandic arteryと呼ばれる。

Rosenthal: フリードリヒ・クリスチャン・ローゼンタール Friedrich Christian Rosenthal (1780 - 1829) ドイツの解剖学者 1823年にラテン語でvein of Galenに接続する深部静脈を報告している。Rosenthal F: On the deep cerebral veins or the branches of the great vein of Galen [in Latin]. Bd XII Teil 1:S. 301-312, 1824.

Schwann: テオドール・シュヴァン Theodor Schwann はドイツの生理学者、組織細胞学者。1810年生まれ、1882年没。ヨハネス・ミュラーの弟子に当たる。シュワン細胞、シュワン鞘の発見者で、名前が残っている。他に、ペプシンの発見や、酵母の研究なども有名。

Sylvius F: フランシスクス・シルウィウス Franciscus Sylvius は、17世紀のオランダの内科医、脳研究者。本名は フランツ・ドルボエ Franz de le Boë。フランシスクス Franciscus は フランツ Franz をラテン語風にしたもの。シルウィウス溝に名前が残っており、ジンの発明者としても有名。

Sylvius J: ヤコブス・シルウィウス Jacobus Sylvius は、15~16世紀のフランスの解剖学者。ラテン語名で、本名はジャック・デュボア Jacque Debois。ヤコブス Jacobus は ジャック Jacque のラテン語名。シルウィウス水道などに名前が残っている。

Trolard: Paulin Trolard (1842-1910) 19世紀末のフランスの解剖学者。1886年 Bordeaux大学で博士号取得、同時代の解剖学者にLuschkaがいる

Uchimura 内村 祐之 (うちむら ゆうし、1897- 1980年) 精神科医。専攻は臨床精神医学・神経病理学、東京大学名誉教授、内村鑑三の長男。ドイツ留学時代に海馬に至る動脈解剖を研究し P3 segmentから海馬後半に至る動脈の微小解剖を詳細に解析し、1928年に論文で報告。ドイツ語圏ではいまでもArtery of Ucnimuraと呼ぶ。

Vesalius: アンドレアス・ヴェサリウス (Andreas Vesalius, 1514年12月31日 ブリュッセル - 1564年10月15日 ザキントス) は、解剖学者で医師、さらに人体解剖で最も影響力のある本、ファブリカ (ヴェサリウス) (英語版) こと“De humani corporis fabrica” (人体の構造) の著者。ヴェサリウスは現代人体解剖の創始者と言われる。

Virchow: ルドルフ・ウィルヒョー Rudolf Virchow または ルドルフ・ルートヴィヒ・カール・ウィルヒョー Rudolf Ludwig Karl Virchow は、19世紀のドイツの医師で病理学者。1821 - 1902年。ヨハネス・

Niche Neuro-Angiology Conference 2014

ミュラーの弟子の一人。ウィルヒョーの弟子には、ランゲルハンス島のパウル・ランゲルハンスがいる。ウィルヒョーの法則、「すべての細胞は細胞からつくられる」は有名

Waldeyer: Heinrich G Waldeyer-Hartz ハイน์リヒ・G・ヴァルダイエル-ハルツはドイツの解剖学者で、1836年～1923年ベルリンで没。染色体 (chromosome) や、ニューロン neuron という言葉をつくりワルダイエルの咽頭輪 (扁桃輪)、ワルダイエル咽頭リンパ輪に名を残す。

Wernicke:カール・ウェルニッケ Carl Wernicke (1848-1905) ドイツの神経科学者で外科医。1874年にこの領域の障害が感覚性失語と呼ばれる特有の失語症を起こすことを発見。

Willis: トーマス・ウィリス Thomas Willis は、17世紀のイギリス (イングランド) の医師、解剖学者。1621～1675。人体の構造について多くの発見をした。大脳動脈輪の構造を解明した人で、ウィリスの動脈輪としてその名前が残っている。他にも、彼の命名した構造には、レンズ核、線条体などがある。

Zinn : Johann Gottfried Zinn (1727-1759), a franconian anatomist and botanist made important contribution to the anatomy of the eye during his short life span.annulus of Zinn